へいせい ねん だい ごう そんがいばいしょうとうせいきゅうじけん
平成15年(ワ)第21846号 損害賠償等請求事件

げんこく さとう たきさぶろう ほか めい
原告 佐藤瀧三郎 外1名

ひこく しゃかいふくしほうじんとうきょうとしゃかいふくしじぎょうだん ほか めい
被告 社会福祉法人東京都社会福祉事業団 外1名

じゅんび しよめん
準備書面 (1)

へいせい ねんじゅうにがつ にち
平成15年12月18日

とうきょうちほうさいばんしよ みんじだい ぶ ごうぎ がかり おんちゅう
東京地方裁判所民事第14部合議ろB係 御中

ひこく しゃかいふくしほうじんとうきょうとしゃかいふくしじぎょうだん
被告 社会福祉法人東京都社会福祉事業団

じょうきししょうだいにん べんごし たく 久 しま こうじ
上記訴訟代理人弁護士 多 久 島 耕 治

ほんけん じこ とうじつ じじつ けいか
1 本件事故当日の事実経過

ほんけん じこ はっせい へいせい ねんいちがつようかゆうがたいこう じじつ けいか かき
(1) 本件事故が発生した平成15年1月8日夕方以降の事実経過は下記のとおり
である(甲10、11)。

き
記

じ ふん すすむし きんむしつまえ き しょくいん しょくかん と い
16時20分 進氏が、勤務室前に来て、職員に食缶を取りに行ってもいい
かと尋ねる。

じ ふん すすむし しょくいん こえ しょくかん と ちゅうぼう で
16時40分 進氏が、職員に声をかけられ、食缶を取りに厨房に出かける。

じ ふん すすむし もど ほか さむ
16時55分 進氏が、「ただいまー」と戻ってくる。「外は寒かったよ。」と
いい、2階自室に入る。

じ ふん すすむし にゅうよく じゅんび ととの じしつ で
17時30分 進氏が、入浴の準備を整え、ら自室から出てくる。「さんも
う出た? さんは?」と浴室の様子を木村職員に聞く。そ
れら入所者が既に浴室を出ていたため、同職員が入浴の声か
けをすると、進氏は浴室に向かう。

じ ふん やきん たくら しょくいん かいしょくどう ゆうしょくじゅんび はじ
17時45分 夜勤の田倉職員が2階食堂で夕食準備を始める。

- 18時00分 田倉職員は、2階の夕食配膳後、木村職員と入れ替わり1階食堂に移動する。
- 18時25分 進氏が食堂に来ないため、木村職員が浴室に探しに行くと、同氏が浴槽にうつ伏せに浮いているのを発見する。直ちに浴槽から引き上げる。
- 18時28分 木村職員が、1階にいた田倉職員に事故を知らせる。
- 18時30分 田倉職員が2階浴室に駆けつけ進氏の脈を確認したが、脈がとれないので、以後5分間心肺蘇生を試みる。
- 18時32分 遅番の早川職員が現場に駆けつけ、田倉職員とともに心肺蘇生を行う。木村職員が救急隊と保健棟看護師に連絡する。
- 18時33分 夜勤の岩間看護師が現職に駆けつける。
- 18時35分 岩間看護師が田倉職員に代わり、以後4分間心臓マッサージを試みるが、意識、脈ともに戻らず。
- 18時39分 救急隊が到着し、浴室及び救急車内で蘇生措置を行う。
- 18時55分 職員が園長に連絡をする。
- 19時00分 18時50分から連絡していた父親（原告佐藤瀧三郎氏）に連絡が取れ、状況を報告する。
- 19時03分 救急車が進氏を乗せ花輪病院に向かう。木村職員が同乗する。
- 19時05分 父親に、搬送先が花輪病院であることを連絡する。父親は、同病院に向かうと返事する。
- 19時10分 救急車が花輪病院に到着する。
- 19時20分 進氏の死亡が確認される。
- 19時27分 同行した木村職員から園に、進氏の死亡が確認された旨の連絡が入る。
- 19時30分 園の中島成人課長が日野警察に連絡をする。

19時50分 園の板山援護係長が花輪病院に向かう。

19時55分 日野警察が花輪病院に到着し、木村職員から、入浴開始時間、
発見者、発見時の状況等の聴取を始める。

20時05分 日野警察の飯田氏、野田氏が園に到着し、現場確認及び事情
聴取を始める。渡辺園長、中島成人課長、田倉職員が対応。

20時30分 園での現場確認、事情聴取が終了する。

20時35分 進氏の両親(原告ら)が花輪病院に到着。板山係長、木村職
員が出迎え、状況説明をする。

20時40分 監察医が到着して死体を検案する。

21時00分 園長、中島課長が花輪病院に到着し両親に挨拶をする。

21時40分 進氏の遺体が日野警察に搬送される。

22時10分 遺体が両親とともに警察から自宅に向かう。園長以下職員が
見送る。

(なお、両親が花輪病院に到着した時刻については後日の調査で、
甲10の記載時刻(20時37分)より数分早かったことが判明。

(2) 以上の事実経過は、入浴開始時期をはじめ、原告らが訴状4頁以下で主張
する事実経過とは一部異なる。

しかし、原告らの主張する事実経過は、事故後44日も経過した後に、原
告ら代理人が原告らから聴取した内容に基づくものと考えられるところ(甲
9) 事故当日、関係職員らへの聴取を基に作成された事故報告書(甲10)
の正確性とは比較すべくもない。なお、原告らが、特に入浴開始時刻につい
て、進氏が食缶を取りに行きたいと申し出た時刻と取り違えていると思われ
ることは、既に答弁書で述べたとおりである。

(3) よって、真実の事実経過は、上記のとおりであったと考えられる。

2 その余の被告事業団の反論は、本日付の文書送付囑託の結果も踏まえて、次
回期日に提出する。以上